

教員氏名	楊 澄				
ローマ字	You ei				
所属学部	共通教育センター				
所属学科	言語				
職名	特別客員教員				
研究室	学思館	F3	楊研究室		
e-mail	yy1210021509@163.com				
取得学位	修士（文学）				
学歴	2019-2021年北京国際関係学院大学院 日本言語文学専攻 修士				
専門分野	日中文化 交流	比較文学	カリキュ ラム評価	日本語 教育	老荘思想
教育研究社会活動 の概要	2021年12月-2022年7月 上海市大学教師専門発展センター 上海市 高校教師養成プロジェクト； 2023年8月-2025年8月 上海教育委員会 上海高等学校青年教師養成支 援計画；研究テーマ：『CSE課程評価モデルによる応用型日本語 課程評価体系の構築に関する研究』； 2024年09月-11月 上海市青年教師培優プロジェクト第四期 フィンランドヘルシンキ大学+上海師範大学 「青年教師培優プロジェクト——フィンランド混合教学設計」 2025年4月-6月 復旦大学FD-QM混合教育標準プロジェクト； 2024年12月-2026年12月 上海市教育委員会 上海教育発展基金会「晨 光計画」；研究テーマ：『異文化交流から翁広平『日本国志』の 中日文化交流成果研究—詩文を中心として—』				
担当授業科目	上海工商外国語職業学院における授業科目： 総合日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ；日本語聴解Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、日本語 会話、日本語通訳など 九州共立大学における授業科目：初級日本語ⅠA、ⅡB；中級日本 語Ⅰ、Ⅱ；上級日本語Ⅰ、Ⅱ				
学内における委 員会活動等	なし				
社会貢献・国際 連携等	なし				
学術業績					
種類	著書・学術論文の名	単著 共著	発行年 月等	発行所 等	概要
学術 論文	鴨長明の老荘観— 『方丈記』を例とし て—	単著	2022年1月	『日本 学研 究』時 事出版 社	本稿は『方丈記』にお ける鴨長明の思想を、 仏教的な無常観のみな らず老荘思想の影響と いう新たな視点から再 考した。具体的には、 その自然観・欲望観・

					隠棲生活を分析し、長明の思想基底には仏教と老荘思想の融合が見られることを明らかにした。特に、節欲や不争の姿勢は、仏教的禁欲より老荘的「自然」に近く、隠者文学における老荘受容の深さを実証した。
学術論文	2、『沙石集』の中の老荘思想に関する研究	単著	2022 年 12 月	『外国語学界』	本論文は、日本中世仏教説話集『沙石集』における老荘思想の受容と変容について考察した。具体的には、漢籍引用の中でも特に比重の高い老荘典籍に注目し、和光同塵・欲望観・弁証法思想の三側面から分析を加えた。その結果、無住道暁には老子偏重の傾向が見られ、老荘思想が仏教教義の解説や礼仏方法の説明に活用されていること、すなわち明らかな仏道融合の姿勢が窺えることを論証した。
学術論文	CSE 課程評価モデルによる応用型日本語課程評価体系の構築に関する研究	単著	2025 年 6 月	『智慧教育』 DOI : 10.69979/3029-2735.25.06.067	文章は、日本語専攻における課程思政の評価の重要性を論じ、CSE 評価モデルを基に、応用日本語専攻を対象とした包括的評価体系の構築を提案する。需要評価・計画評価・形成的評価・総括的評価の 4 次元から、4 つの一級指標、12 の二級指標、33 の三級指標から成る評価モデルを確立し、思政教育と言語教育の有機的結合を推進するとともに、その実践的応用と教育的価値を分析した。

学術論文	翁広平『日本国志』の「芸文志」における詩文の考察	単著	2026年3月	九州共立大学研究紀要第16巻第2号.	本論文は、中国清初鎖国期に編纂された最初の中国人による日本通史『日本国志』を取り上げた。北京図書館とハーバード大学所蔵の写本を比較し、巻十八から二十四の「芸文志」に収録された『佚存叢書』など六作品を分析することで、これらが著者・翁広平の著述において果たした文献的役割を解明し、同書の清初中日交流史研究における学術的価値を明らかにした。
学術論文	珍稀文献と歴史像：翁広平『吾妻鏡補』の世系表・地理志考論	単著	2026年第三期	《社会经济导刊》 ISSN:30799007	文章は清代の翁広平が鎖国政策下で編纂した最初の中国人による日本通史『吾妻鏡補』を考察する。特に「世系表」と「地理志」に着目し、その編纂背景、構成、序文で示された目的、および約200種に及ぶ引用文献を分析する。限られた情報環境において日中双方の文献を広範に引用した学術的意義を指摘し、同書が貴重な交流史料を保存するとともに、当時の日本研究の方法と限界を示し、文化交流史・文献学研究に重要な知見を提供することを論じた。
学術論文	生成AIの高等教育分野における規制：欧州の経験の参考とAIASフレームワークに基づく具体的なカリキュラムAI応用ガイドライン整備の提案	単著	2026年3月	九州共立大学研究紀要第16巻第2号.	本稿は、生成AIの教育応用に伴う倫理的課題に対処するため、ユネスコ指針を基に「AIAS」（AI Assessment Scale）に基づく学術倫理フレームワークを提案した。「国家AI規制—大学方針—授業ガイドライン」の階層的ガバナンス

					ス枠組みを提案し、欧州の先進事例を参照しながら、AIASは大学のAI対応を「受動的制限」から「能動的導き」へ転換し、学生の批判的思考とデジタルリテラシーを育成し、最終的に、各大学が特性に応じた授業ガイドラインの作成と実証プロジェクトを推進することを提言した。
学術論文	「学校主導型」から「産学共創型」へ：応用型大学の産教連携における企業参画の課題と改善策	単著	2026年9月 (予定)	九州共立大学研究紀要第17巻第1号	応用型大学における産教連携を実質的に推進するうえで、「学校側は積極的である一方、企業側の関与が消極的である」という課題が大きなボトルネックとなっている。とりわけ、企業側の参画意欲の不足は、産学協働による人材育成を妨げている。本稿では、利益・制度・組織・認識の四つの視点から分析し、企業参画を阻害する要因を明らかにした。具体的には、企業が短期的利益を得にくいこと、制度的インセンティブの不足により協働関係が個人的つながりに依存していること、組織運営効率に課題があること、さらに大学と企業との間に認識的ギャップが存在することなどが挙げられる。中国の上海工商外国语学院を事例として取り上げ、日本における産教融合の制度設計、利益共有メカニズム、組織間連携、および文化的支援の実践経験を参照しながら、「学校側のみが主導す

				る連携」から「大学と企業が相互に歩み寄る協働関係」への転換に向けた三段階の改善策を提示した。具体的には、短期的には企業の参画コストを軽減し、中期的には利益共有メカニズムを構築し、長期的には評価制度そのものの改革を進めることを提案した。
--	--	--	--	--